

無医地区・離島へき地における母子保健管理

大 嶺 経 勝 (県立糸満療養所)
小 渡 有 明 (環境保健部予防課)
那 覇 保 健 所
石 川 保 健 所
宮 古 保 健 所
八 重 山 保 健 所

はじめに

地域における母子保健管理を強化していくには、地域の特殊性を考慮した、きめこまかな保健管理対策が必要である。人口が少なく出生率の低い、小さな島々を多くかかえている本県では、各島に母子保健関係施設を設置し、母子保健関係医療要員を常駐させることは、全国平均の約 $\frac{1}{2}$ の医療施設及び医療要員しかない現状ではきわめて困難な問題である。

37の有人島の母子保健管理は、沖縄本島を除く離島では、専門職員(専門医師、保健婦、臨床検査技師等)のチームによる定期的な巡回健康診査、精密健康診査、保健指導及び保健婦による事後管理が重要で、昭和49年度より、母子保健管理上問題の多い宮古保健所管内を中心に、上記の方法で実施し、現在は、八重山保健所、那覇保健所、名護保健所管内の離島でも行なわれ、健診から精密検診、事後管理と一貫した母子保健管理が展開されつつある。しかし、分娩の時期には、助産施設のある島まで行かなければならず、島外に出る場合、単に交通の不便や経済的問題のみでなく、分娩を前後とした時期の母子保健管理をしていくための妊産婦新生児のホームが大きな問題として残されており、今回特にこの点を中心に、離島へき地の調査結果を発表する。

I 沖縄県の離島の概況

沖縄県は、わが国の最西南端に位置し、東西約1,000 Km、南北400 Kmに及ぶ広大な海域に散在する沖縄本島、宮古島、石垣島の主要島を中心に70余の島々からなっており、沖縄振興開発特別措置法による指定離島は、沖縄本島及び本島と橋で結ばれた島を除く57島(うち有人島39島)

で、県全体に占める割合は、面積で約4.57%、人口で12.4%を占めている。

このような地理的特殊性から、厚生省定義による無医地区が15市町村36地区(無歯科医地区28市町村55地区)となっている。(図-1)

(1) 離島の人口

離島の人口は、年々減少するのみで、なかには廃校、廃村の地区もあり過疎化現象を呈している。沖縄本島、宮古島及び石垣島を除く離島の人口は、49,333人(昭和50年)で、出生数は641人(昭和50年)、13.0の出生率で沖縄県21.5及び全国17.1に比較すると低い率を示している。年令別人口は、0~14才が32.2%、15~19才が7.8%、20~29才が10.1%、30~39才が6.3%、40~49才が13.4%、50才以上が30.2%を示し、20代から40代の生産年令は29.8%である。職業は主として農業従事者が多く50%を占めている。(図-2)

(2) 交通、通信

離島を結ぶ交通は、航空路と海路であるが、沖縄本島、宮古島、石垣島を除く離島で、航空路のあるのは、久米島、南大東島、北大東島、多良間島、波照間島、与那国島のみで、その他の島は海路のみであり、天候により欠航も多い。(図-3、4)

通信網として電信電話は、沖縄本島、宮古島、石垣島と直接ダイヤル通話の出来ない島が9カ所(栗国島、渡名喜島、南大東島、北大東島、西表島、竹富島、黒島、外浜島、鳩間島)ある。

(3) 経済状況

本島の昭和50年度の1人当り県民所得は前年比で13.4%の増を示しているが、国民所得の74.3%にしか達しておらず、物価上昇率は、

34.7%で全国平均より3ポイント高い。更に離島では、所得は低く、沖縄本島、宮古島、石垣島に比較して物価も高い。生活保護率(昭和50年度)は県平均25.8%で全国平均の12.0%に比べかなり高い。離島における保護率は、85.3%と高率を示している。

扶助別保護をみると、全国が医療扶助59.7%、生活扶助33.9%となっているが、本県の場合、生活扶助66.8%、医療扶助23.5%と市部も郡部も同じ状況で、全国の扶助別保護とは、著しい差があり、生活苦がうかがえる。

(4) 母子保健施設と医療関係者

母子保健に関する医療施設は、沖縄本島、宮古島、石垣島を除く離島には、産科医は皆無で、久米島に母子健康センターがあるのみで、助産婦のいない島が31か所、保健婦が常駐せずかけもちで管理している島が21か所ある。人口の少ない島々の多い地域での母子保健管理の困難性が伺える。助産施設がなく、産科医、助産婦のいない島での分娩は、殆どどのケースが島外である。

II 妊産婦ホームに関する調査

離島へき地の母子保健管理システムの一つとして、妊婦保健指導及び乳幼児保健指導の機会を利用して、保健婦による面接調査をした。

(1) 調査地区及び調査対象

調査地区は、沖縄本島、宮古島、石垣島及び母子健康センターの設置されている久米島を除く離島で、対象者は、妊婦189人と乳幼児(0~3才)の母親791人である。(図-5)

(2) 年齢構成及び学歴

夫婦の年齢構成をみると、夫は20~29才49%、30~39才39.3%で妻20~29才68.1%、30~39才25.4%で、19才以下の夫が0.8%に対し妻は2.5%である。

学歴は、夫婦とも中学卒が62%を占め、次いで高校卒26.9%、短大・大学卒が6.5%となっている。

(3) 職業

職業をみると、主として夫は農漁業30.5%、会社員(製糖工場、パイン工場等)18.6%、公務員(教師、地方公務員等)17.9%で、妻は家

事80.3%、公務員(教師、地方公務員等)6.4%となっている。

(4) 家族構成及び子供の数

家族構成をみると、54.6%が核家族で、夫婦子供以外の同居人(舅、姑、兄弟姉妹等)が1~2名いる家族が約30%で、5人以上の同居人がある家族が5.5%である。

子供の数は、1人が24.8%、2人が24.1%となっており、4人以上が26.9%で、そのうち5人以上が15.4%を占めている。(図-6)

(5) 前回の分娩状況(0~3才児母親)

0~3才児の母親の前回の分娩場所は、医療機関52.5%、自宅19.2%となっており、医療機関での入院期間は、6~7日が最も多く53.3%を占めており、1日の入院も2.8%あるが、その大半は宮古保健所管内である。(図-7)

施設分娩をしたもので、分娩前まえもって助産施設のある近くの本島へ行き宿泊したものは322人(52.5%)で、当日入院276人の約56%は宮古保健所管内である。

宿泊をした期間は、1か月前よりが36.0%で、次いで10日前よりが31.7%となっている。

(図-8)

宿泊場所は、親せき63.7%、実家24.2%、その他友人及び知人が10.9%となっている。退院後も引きつづき宿泊をしたものは42.1%で、その他のものは、退院とともに帰宅しており、宿泊期間は、10日までが48.8%、次いで1か月までが20.2%となっている。

(6) 現在妊娠しているもの

離島の妊婦は、保健婦により把握され、保健指導は行なわれているが、医師及び助産婦による健診の未受診者が、経産婦136人中3人もおり、その中の1人は9か月である。経産婦の場合、初妊婦に比較し健診回数は少ない。(図-9)

分娩予定場所をみると、病院及び診療所が79.4%、助産所6.9%となっているのに対し、自宅9.5%、島外の実家での自宅分娩をするもの4人は、宮古及び八重山保健所管内各2人である。

(図-10)

島外で分娩予定をしているもの162人のうち分娩予定日前に島を出る期間が、分娩予定日10

日前 37.0% が最も多く、次いで1か月前 21.6%、いつ出るか不明のもの 18.5%、宿泊せず当日入院予定者が 13.6% (22人) あり、そのうちの 19人が宮古保健所管内となっている。

宿泊予定場所は、親せき 33.3%、実家 17.3%、友人及び知人 10.5% となっており、0～3才児をもつ母親の前回分娩時と同じ傾向にある。退院後宿泊を希望するものは 40.7% で、期間は 10日以内が 14.4%、次いで1か月以上が 12.3% となっており、退院後宿泊せず当日帰島予定のもの 46.3% (75人) あるが、そのうちの 46人は宮古保健所管内である。

(7) 妊産婦ホームの必要性

島外分娩が大半を占めている現状で、分娩前及び分娩後、母子の健康管理をし、休養の出来る宿泊施設を有する妊産婦ホームの設置が必要と答えたものは、0～3才児の母親で 76.6%、現在妊娠しているもの 83.6% と、多くのものが妊産婦ホームを必要としている。

妊産婦ホームが、もしあれば利用するか、については、0～3才児の母親 68.5%、現在妊娠しているもの 73.5% と、かなり多くのものが利用すると答えている。その理由は、0～3才児の母親は、「気がねしない」 24.0% 「安心出来る」 7.2% となっており、現在妊娠しているものでは「便利」 32.3%、「気がねしない」 16.5%、「安心出来る」 15.8%、「経済的」 8.2% となっている。

Ⅲ これからの妊産婦ホームについて

助産施設及び産科医、助産婦のいない離島を多くかかえている本県の現状と、妊産婦ホームに関する調査結果より、妊産婦ホーム設置について検討する必要がある。

規模としては、5床以内のホームで、離島より

の分娩の多い沖縄本島の那覇市、宮古島の平良市、石垣島の石垣市の3か所に必要で、保健指導部門と分娩前後の入院の出来る宿泊部門を併設した施設が必要である。

ホームには、保健婦、助産婦等を配置しなければならないが、計画に際しては、産科医、小児科医、助産婦等の積極的な協力及び参加が重要なことはいうまでもない。

離島にいる妊婦の把握については、地区駐在担当保健婦との密接な連けいが必要である。搬送に際しての連絡、入院後の妊婦の状態チェック及び保健指導、分娩予定場所の医療機関との連絡、医療機関への搬送、分娩後の受入れ準備及び連絡、医療機関よりホームへの搬送、産褥保健指導、地区駐在保健婦への引きつぎ等、きめこまかな計画がなされないと安全な母子の健康管理は困難である。

設置運営に関しては、財源が大きな問題となるが、従来の母子健康センター設置補助制度ではむずかしい。離島振興計画の中で、離島をもつ市町村の組合方式の検討も一つの方法ではないだろうか。しかし設置運営に関しては、更に国や県、管轄保健所、市町村、医師会、助産婦会等との十分な検討が必要である。

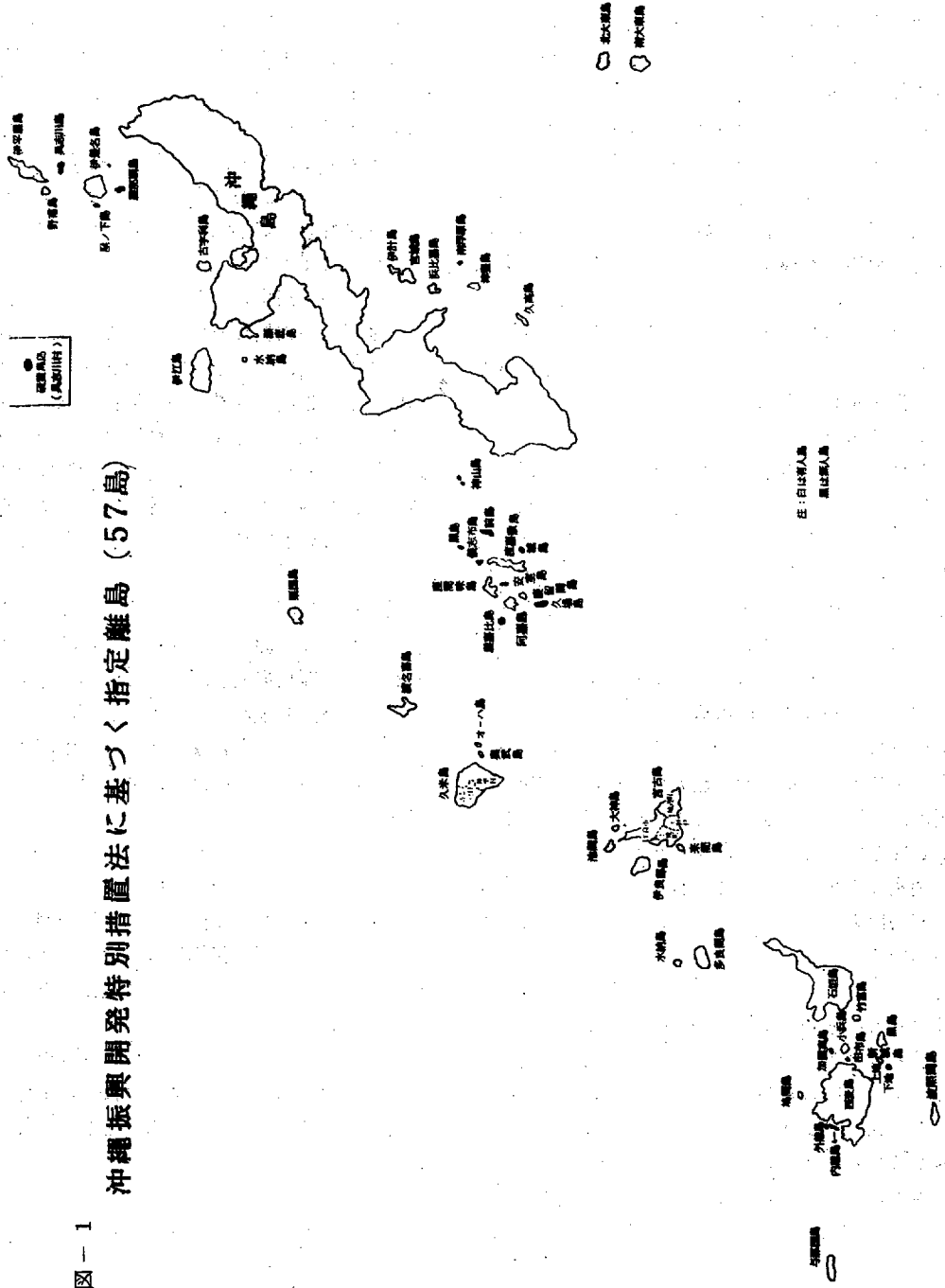
おわりに

精神的不安定もなく、安心して、分娩をするには、分娩前後の母子保健管理を含む、総合的な離島の母子保健管理を検討する時期にいたっているのではないだろうか。

都市地域では、助産所での分娩も減少し、遊休ベットが多いが、これに関しては、都市地区の産褥婦の休養施設としての利用が必要で、現在、調査中である。

図-1

沖縄振興開発特別措置法に基づく指定離島(57島)



(図 - 2) 昭和 50 年 島 じ ゃ 別 人 口

島 じ ゃ 別	所 属 市 町 村	昭和 50 年 国 勢 調 査		昭和 45 年 国 勢 調 査		増 減 数		増 減 率 (%)		昭和 50 年		
		世 帯 数	人 口 数	世 帯 数	人 口 数	世 帯 数	人 口 数	世 帯 数	人 口 数	出 生 数	乳 児 死 亡 数	妊 産 婦 死 亡 数
全 沖 縄		260908	1042452	223388	945111	37570	97341	168	103	22371	270	8
○ 沖 縄 本 土		227414	913517	189483	803058	37931	110459	200	138	20250	284	8
古 宇 利 島	今 帰 仁 村	132	536	141	533	- 9	8	- 6.4	0.6	4		
瀬 底 島	本 部 町	266	940	295	1264	-29	-324	- 8.8	-25.6	10	1	
水 納 島	〃	26	71	20	64	6	7	30.0	10.9	-		
伊 江 島	伊 江 村	1460	5262	1460	5342	0	-580	0	- 3.9	81	4	
伊 計 島	与 那 城 村	140	368	150	467	-10	- 99	- 6.7	-21.2	-		
宮 城 島	〃	456	1578	487	1334	-31	-256	- 6.4	-14.0	22		
浜 比 嘉 島	勝 連 村	231	687	229	869	2	-182	0.9	-20.9	14		
津 堅 島	〃	251	1028	245	1172	6	-144	2.4	-12.3	15	1	
久 高 島	知 念 村	111	400	112	424	- 1	- 24	- 0.9	- 5.7	1		
久 米 島	具 志 川 村 仲 里 村	2494	10079	2480	11255	14	-1,176	0.6	-10.4	109	1	
奥 武 島	仲 里 村	12	26	23	109	-11	- 88	- 47.8	- 76.1	-		
渡 嘉 敷 島	渡 嘉 敷 村	254	818	208	712	51	106	25.1	14.9	3		
座 間 味 島	座 間 味 村	155	504	163	600	- 8	- 96	- 4.9	-16.0	3		
阿 嘉 島	〃	101	298	104	412	- 3	-119	- 2.9	-28.9	-		
慶 留 間 島	〃	35	72	32	97	3	- 25	9.4	-25.8	1		
粟 国 島	粟 国 村	480	1281	466	1522	-36	-241	- 7.7	-15.8	11		
渡 名 喜 島	渡 名 喜 村	232	721	265	1004	-33	-288	-12.5	-28.2	9		
南 大 東 島	南 大 東 村	549	1712	627	2252	-78	-540	-12.4	-24.0	18		
北 大 東 島	北 大 東 村	167	647	182	764	-15	-117	- 8.2	-15.8	8		
伊 平 屋 島	伊 平 屋 村	401	1493	483	2029	-82	-536	-17.0	-26.4	14		
野 甫 島	〃	50	147	54	225	- 4	- 78	- 7.4	-34.7	2		
伊 是 名 島	伊 是 名 村	658	2236	758	3279	-105	-993	-13.9	-30.3	20		
○ 宮 古 島	平 良 市 上 野 村 下 地 町	11235	44977	10979	47427	256	-2450	2.3	- 5.2	768	9	
池 間 島	平 良 市	374	1373	401	1586	-27	-213	- 6.7	-13.4	11		
大 神 島	〃	31	137	27	163	4	- 26	14.8	-16.0	2		
来 間 島	下 地 町	80	284	97	359	-17	- 75	-17.5	-20.9	1		
伊 良 部 島	伊 良 部 村	1927	9168	1949	9182	-22	31	- 1.1	0.3	150		
多 良 間 島	多 良 間 村	458	1789	498	2260	-40	-471	- 8.0	-20.8	30		
水 納 島	〃	6	16	5	26	1	- 10	20.0	-33.5	-		
○ 石 垣 島	石 垣 市	9042	34625	9006	36554	36	-1929	0.4	- 5.3	712	17	
竹 富 島	竹 富 町	130	352	122	336	8	16	6.6	4.8	3		
西 表 島	〃	510	1516	605	2302	-95	-786	-15.7	-34.1	23		
鳩 間 島	〃	18	38	27	69	- 9	- 36	-33.3	-42.2	2		
小 浜 島	〃	156	410	163	560	- 7	-150	- 4.3	-26.8	5		
波 照 間 島	〃	235	855	221	1064	14	-209	6.8	-19.6	17		
黒 島	〃	94	280	115	448	-21	-168	-18.3	-36.8	2		
新 城 島	〃	6	15	19	62	-13	- 47	63.4	-75.8	-		
由 布 島	〃	3	8	22	68	-19	- 60	-36.4	-32.2	-		
与 那 国 島	与 那 国 町	533		670	2913	-87	-760	-18.0	-26.1	50	3	

図-4 定期航海路

区 間	所要時間	運 賃	月(往復)回数	備 考	
那 霸 (泊港)	伊平屋	6:00	1,180	4	
	伊是名	4:20	1,030	6	
	渡嘉敷	1:10	700	26	
	座間味	1:45	900	30	夏 冬
	阿嘉				
	粟国	3:00	900	9	
	渡名喜	5:00	930	7	
久米島	4:10	1,180	25		
北大東	16:00	3,150	3		
南大東					
宮 古 半 良 港	池間	1:00	300	141	
	来間	0:10	70	120	
	伊良部	0:30	110	294	
	多良間	3:00	850	8	
石 垣	西表(東)	2:00	350	30	※30回 1,030円
	〃(船浦)	2:00	500	25	夏 冬
	竹富	0:10	110	18	
	小浜	1:05	280	50	※30回 400円
	黒島	0:30	280	30	※60回 860円
	鳩間-白浜	2:55	620	60	※60回 860円
	波照間	2:35	620	25	鳩間 500円
与那国	7:00	1,400	12	6	
	古宇利-連天	0:10	55	60	
	伊江-渡久地	0:40	460	24	
	瀬底-浜崎	0:10	20	275	
屋 敷 名	伊計	0:40	175	60	
	浜比嘉	0:30	140	75	
	津堅	1:00	250	90	
久高-馬天	1:00	90	30		

(注) ※はホーバー利用の場合

図-3 定期航空路

区 間		週(往復)回数	大人片道運賃
那 覇	久米島	23	4,400
	南大東	12	14,400
	宮古	56	8,600
	石垣	70	11,700
宮 古	多良間	7	4,000
	石垣	14	4,400
八 重 山	与那国	21	6,400
	波照間	4	8,000

図-5 保健所別(離島のみ)対象者数

対象者 \ H.C.		那覇	石川	名護	宮古	八重山
	(35)	(9)	(4)	(7)	(6)	(9)
主婦	189	62	7	27	74	19
0-3才 母親	791	157	68	138	282	146
計	980	219	75	165	356	165

(注) ()は離島数

図-6 子供数

対象者	H.C.	統計	0	1	2	3	4	5~
妊婦		189	55	55	33	34	8	4
0-3才 母親		791	0	188	203	148	105	147
計		980	55	243	236	182	113	151

図7 入院期間（病院・助産所分院）

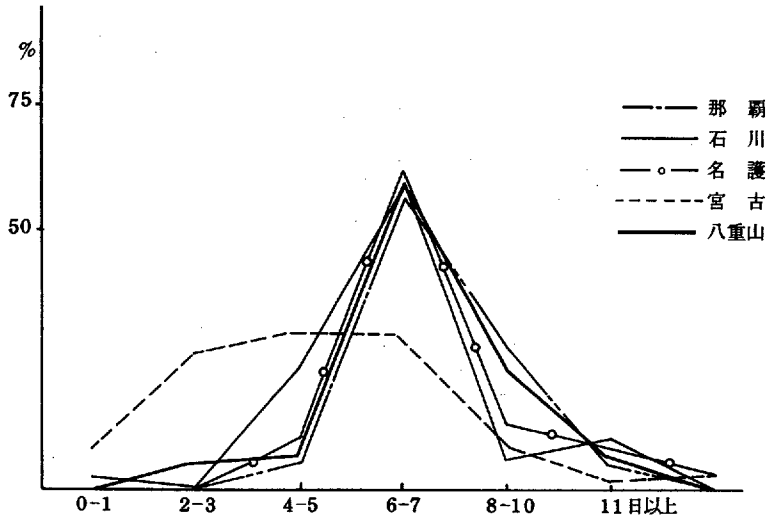


図-8 入院前宿泊の状況

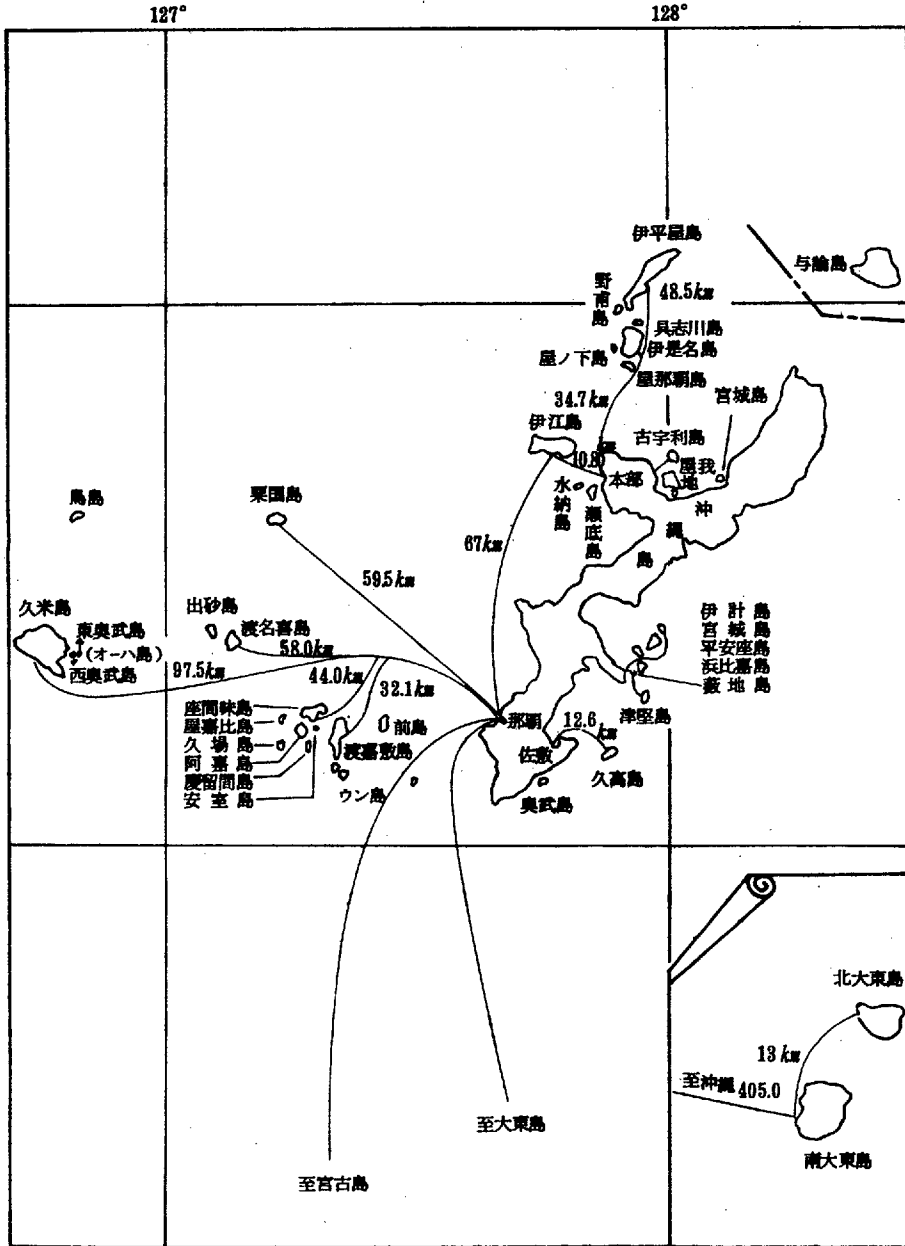
		総数	那覇	石川	名護	宮古	八重山
宿泊有無の割合	計	613	124	53	125	198	113
	有	322 (525)	104 (839)	28 (528)	70 (560)	34 (172)	86 (761)
	無	276 (450)	18 (145)	25 (472)	53 (424)	154 (778)	26 (230)
	不明	15 (24)	2 (16)	0 (0)	2 (16)	10 (51)	1 (09)
宿泊有	計	322(1000)	104(1000)	28(1000)	70(1000)	34(1000)	86(1000)
	10日以内	102 (31.7)	12 (11.5)	18 (64.3)	28 (400)	28 (82.4)	16 (18.6)
	10~19日	53 (16.5)	21 (20.2)	3 (10.7)	13 (18.6)	4 (11.8)	12 (14.0)
	20~29日	51 (15.8)	17 (16.3)	2 (7.1)	9 (12.9)	0 (0)	23 (26.7)
	30日	116 (36.0)	54 (51.9)	5 (17.9)	20 (28.6)	2 (5.9)	35 (40.7)

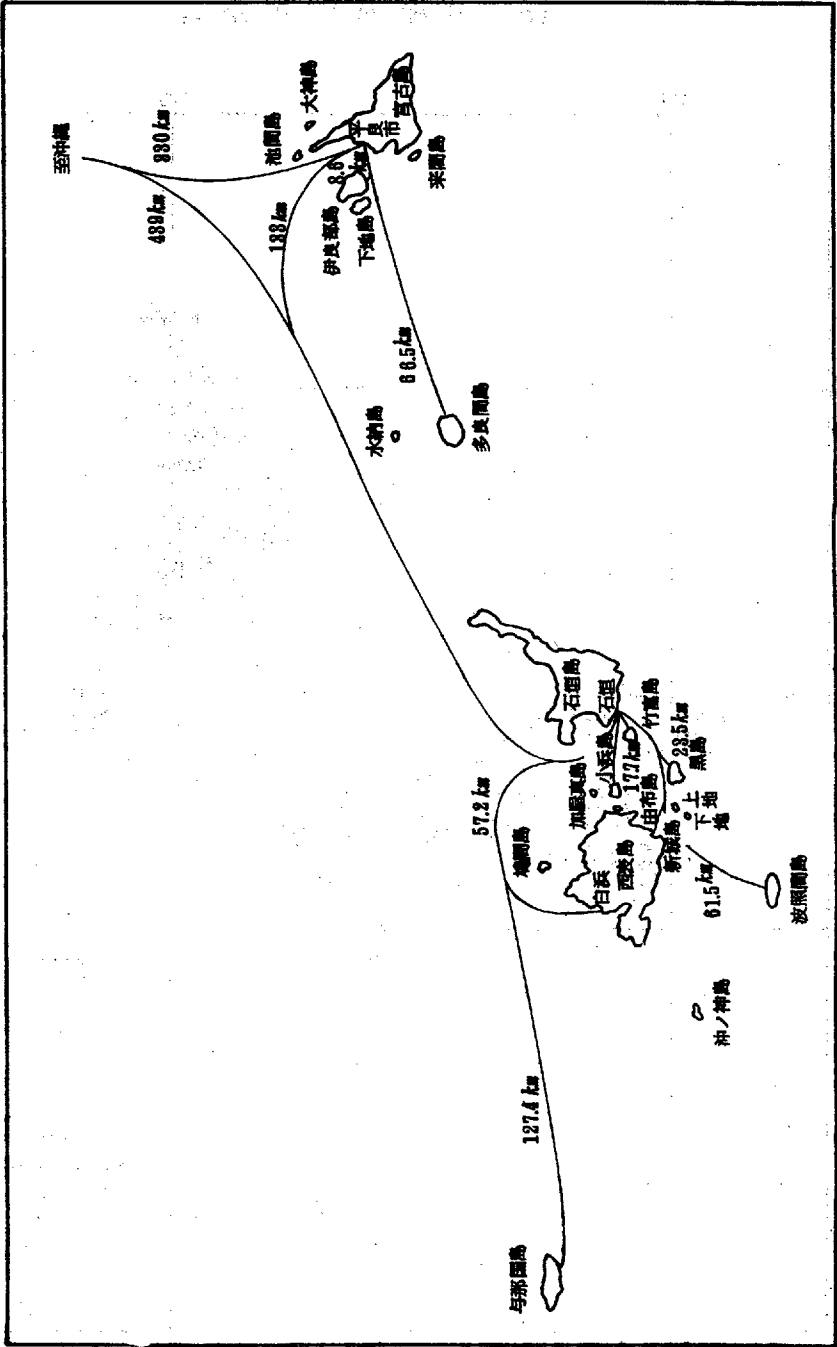
図-9 経・初産別妊娠月数と健診回数

()外は経産 ()内は初産

回数 月数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	不明	計
計	3 (1)	15 (7)	15 (6)	24 (7)	20 (7)	24 (6)	12 (7)	6 (5)	7 (2)	3 (1)	3 (1)					3			136 (53)
2	1																		1
3	2 (1)																	1	3 (1)
4	(1)	1 (2)	1 (3)	1															3 (6)
5		3 (1)	3	2 (1)	(2)	1	(1)											(1)	9 (6)
6		3 (3)	3 (1)	8 (5)	6 (2)	4 (1)	2	1											27 (12)
7	2	4	(2)	4 (1)	3 (1)	5 (2)	2	(2)		(1)	1								21 (9)
8		1	3	5	6 (2)	5 (2)	2 (1)	(2)	1	1	1 (1)					1			26 (8)
9	1		2	2	4	6 (1)	4 (5)	5	3 (2)	1			(1)			1	(1)		29 (10)
10			1			2	2	(1)	2	1	1					1			10 (1)
不明			2	2	1	1			1										7

16 沖縄県内航路図





資料：距離は沖縄総合事務局運輸部海運課による。

図-10 分娩予定場所

保健所名	型別	駐在所数	看護課員	所内勤務		駐在所勤務		那覇	宮古	八重山	石川
				保健婦	看護婦	地区	無医地区				
総数		189	27	62	74	19	7				
病室・診療所		150(794)	26(963)	46(742)	62(838)	12(632)	4(571)				
助産所		13(69)	0	10(161)	3(41)	0	0				
自宅及自家		18(95)	1(37)	6(97)	3(41)	5(263)	3				
その他		5(26)	0	0	3(41)	2(105)	0				
不明		3(16)	0	0	3(41)	0	0				

昭和51年保健婦配置状況

51.5

保健所名	型別	駐在所数	看護課員	所内勤務		駐在所勤務		管内人口	駐保一受 健康人持 在籍均口	管内		PHN 1人平均	
				保健婦	看護婦	地区	無医地区			市	管内		
中央	U ₁	69	182	49	10	85	38	1,042,498	8,476	10	7	224,587	118.26
		4	31	9	2	20	-	295,091	14,755	1	-	3717	1.85
那覇	UR ₂	20	39	9	2	20	8	227,828	8,137	2	1	340,36	12.15
		8	27	8	1	18	-	217,501	12,083	2	1	15,596	8.66
コザ	UR ₃	8	27	6	2	12	3	107,751	7,183	2	-	198,58	13.23
		7	23	7	1	9	11	96,345	4,817	1	1	70,242	35.12
石川	R ₄	14	28	4	2	5	5	57,739	5,774	1	2	22,696	22.69
		8	16	6	-	1	11	40,249	3,354	1	2	58,442	48.70
名護	R ₄	8	18	6	-	1	11	40,249	3,354	1	2	58,442	48.70
		8	18	6	-	1	11	40,249	3,354	1	2	58,442	48.70

※所内勤務保健婦数及び看護課定員に
看護課長を含む。
人口は昭和50.10.現在。

S50. 1975年

保健所別，市町村別保健婦配置

S49. 10月

市町村	人口	保健婦	市町村	人口	保健婦	市町村	人口	保健婦	市町村	人口	保健婦	市町村	人口	保健婦
県計	1,029,301	平均 (8,368)	大里村	7,066	1	(石川)	(107,290)	(22) (15)	国頭村	6,515	2	(八重山)	(3,603)	(18) (12)
(中央HC)	(305,934)	全 (29)	南風原村	14,287	1	駐在1人平均 受持人口	(7,153)		{辺土名			駐在1人平均 受持人口	(3,003)	
駐在1人平均 受持人口	(15,297)		仲里村	5,372	1	石川市	16,887	2	{宜名真			石垣市	30,650	4
那覇市			具志川村	4,176	1	与那城村	13,006	2	東	村	2,377	{石垣		
{泉崎		8	渡嘉敷村	821	1	勝連村	12,105	2	伊紅村	6,022	1	{川平		1
寄宮		7	座間味村	798	1	具志川市	41,257	4	伊是名村	2,407	1	{伊原間		1
{首里		3	栗国村	1,170	1	金武村	12,094	2	伊平屋村	1,490	1	与那国町	2,163	1
{小祿		2	渡名喜村	783	1	宜野座村	4,012	1				竹富町	3,220	2
(那覇)	(216,685)	{37} {28}	南大東村	15,731	1	恩納村	7,929	2	(宮古)	(57,649)	(14) (10)	{竹富		
駐在1人平均 受持人口	(7,739)		北大東村	618	1				駐在1人平均 受持人口	(5,765)		{大富		1
浦添市	57,959	4				(名護)	(93,869)	{27} {20}	平良市	29,279	2	{祖納		1
西原市	11,124	1	(コザ)	(211,840)	{23} (18)	名護市	(4,693)		平良			{波照間		1
豊見城村	22,116	2	駐在1人平均 受持人口	(11,769)					池間					
糸満市	37,127	5	沖繩市	89,348	8	{羽地		1	下地町	2,958	1			
東風原村	10,372	1	読谷村	23,301	2	{屋我地		1	上野村	3,721	1	10市		
具志頭村	6,731	1	嘉手納村	14,751	2	{久志		1	城辺町	11,168	2	6町		
玉城村	9,511	1	北谷村	12,160	1	{屋部		1	伊良部村	8,808	2	37村		
知念村	5,737	1	宜野湾市	51,997	3	本部町	16,535	4	多良間村	1,715	1	駐在保健婦 123 1人平均(8,368)		
佐敷村	8,205	1	中城村	9,851	1	今帰仁村	9,902	2						
与那原町	11,139	1	北中城村	10,432	1	大宜味村	4,487	1						

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

はじめに

地域における母子保健管理を強化していくには、地域の特殊性を考慮した、きめこまかな保健管理対策が必要である。人口が少なく出生率の低い、小さな島々を多くかかえている本県では、各島に母子保健関係施設を設置し、母子保健関係医療要員を常駐させることは、全国平均の約 1/2 の医療施設及び医療要員しかない現状ではきわめて困難な問題である。